

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第 21 週の発生動向

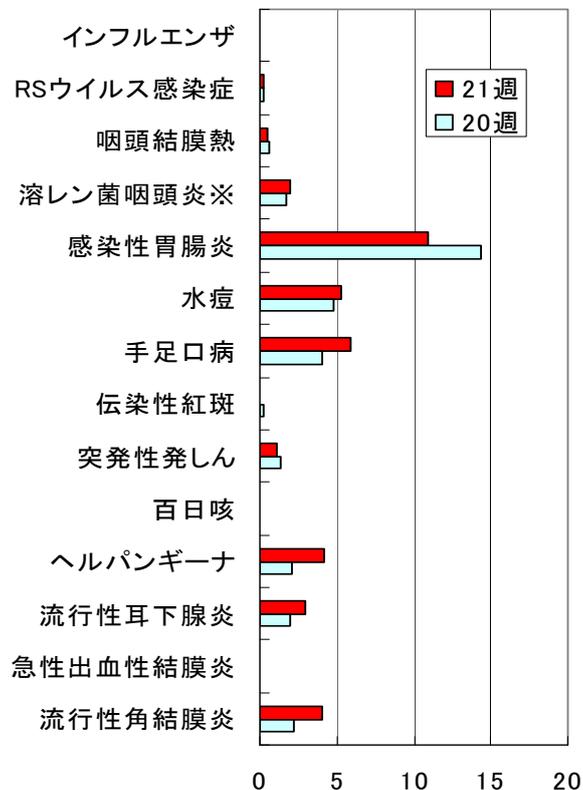
定点医療機関からの報告総数は 1,208 人（定点あたり 36.9）で、前週比 110%と増加した。

前週に比べ増加した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

ヘルパンギーナの報告数は 149 人（4.1）で前週比 204%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.1）の約 3.7 倍と多い。中央（22.0）、延岡（12.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 2 歳で全体の約 6 割を占めた。全て 7 歳以下の報告であった。

手足口病の報告数は 211 人（5.9）で前週比 147%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（2.2）の約 2.7 倍と多い。日南（20.3）、小林（12.7）、都城（9.3）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 8 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
水痘	7	5.3	宮崎市(7.3)、中央(7.0)	1歳～4歳で全体の約8割を占めた。
手足口病	5	5.9	日南(20.3)、小林(12.7)、 都城(9.3)	1歳～3歳で全体の約8割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	4.1	中央(22.0)、延岡(12.0)	1歳～2歳で全体の約6割を占めた。 全て7歳以下の報告であった。
流行性耳下腺炎	6	2.9	日向(14.3)	3歳～6歳で全体の約8割を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 7 例が高鍋 (3 例)、日向 (2 例)、延岡・日南 (各 1 例) 保健所から報告された。
  - 《延岡保健所》・20 歳代の男性で疑似症患者。咳、痰、発熱がみられた。
  - 《日南保健所》・80 歳代の女性で疑似症患者。
  - 《高鍋保健所》・90 歳代の女性で疑似症患者。咳、痰、呼吸困難がみられた。
    - ・90 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
    - ・80 歳代の男性で疑似症患者。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。
  - 《日向保健所》・80 歳代の女性で肺結核。発熱、食欲不振がみられた。
    - ・70 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : ○アメーバ赤痢 1 例が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の男性で腸管アメーバ症。下痢、粘血便がみられた。
  - 急性脳炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。1 歳の女兒で発熱、痙攣、意識障害がみられた。

## ■ 全国第 20 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.2 で、前週比 106% と増加した。今週増加した主な疾患は伝染性紅斑と手足口病で、減少した主な疾患は水痘と RS ウイルス感染症であった。

伝染性紅斑の報告数は 1,623 人 (0.53) で、前週比 230% と増加した。例年同時期の約 1.3 倍である。神奈川県・福井県 (1.5)、山形県 (1.4)、千葉県 (1.3) からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 7 歳までが全体の約半数を占めた。

手足口病の報告数は 4,267 人 (1.4) で、前週比 191% と増加した。例年同時期の約 4 倍である。愛媛県 (10.2)、山口県 (6.1)、大分県 (4.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 8 割を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 285 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 6 例、腸管出血性大腸菌感染症 36 例、
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 7 例、つつが虫病 2 例、デング熱 2 例、日本紅斑熱 1 例、レジオネラ症 12 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 12 例、ウイルス性肝炎 5 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 25 例、アレルギー症 1 例、梅毒 7 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 2 例、麻しん 14 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第21週(05月24日～05月30日)

疾病名		第20週	第21週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	7	8		4	2			2			
	定点あたり	0.19	0.22	0.00	0.67	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	17	3	3	4	7					
	定点あたり	0.56	0.47	0.30	0.50	1.00	2.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	62	70	12	4	21	8	4	8	4	4	5
	定点あたり	1.72	1.94	1.20	0.67	5.25	2.67	1.33	2.00	4.00	1.00	5.00
感染性胃腸炎	報告数	515	394	96	73	26	50	50	46	4	39	10
	定点あたり	14.31	10.94	9.60	12.17	6.50	16.67	16.67	11.50	4.00	9.75	10.00
水痘	報告数	173	191	73	33	27	15	12	10	4	10	7
	定点あたり	4.81	5.31	7.30	5.50	6.75	5.00	4.00	2.50	4.00	2.50	7.00
手足口病	報告数	144	211	21	56	12	61	38	15		5	3
	定点あたり	4.00	5.86	2.10	9.33	3.00	20.33	12.67	3.75	0.00	1.25	3.00
伝染性紅斑	報告数	7	2		1			1				
	定点あたり	0.19	0.06	0.00	0.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	47	38	7	12	10	1		6		2	
	定点あたり	1.31	1.06	0.70	2.00	2.50	0.33	0.00	1.50	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	73	149	42	5	48	2	1	6		23	22
	定点あたり	2.03	4.14	4.20	0.83	12.00	0.67	0.33	1.50	0.00	5.75	22.00
流行性耳下腺炎	報告数	70	104	16	3	15		8	5		57	
	定点あたり	1.94	2.89	1.60	0.50	3.75	0.00	2.67	1.25	0.00	14.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	24	22	1	1						
	定点あたり	2.17	4.00	7.33	0.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

\* 先週(20週)の伝染性紅斑の報告数に訂正がありました。

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～21週)

2類感染症	結核	72例(7)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	11例			
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病
	マラリア	1例	レジオネラ症	1例	
5類感染症	アメーバ赤痢	1例(1)	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎
	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒	4例	破傷風
	麻しん	1例			

( )内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

**ヘルパンギーナと手足口病が増えています。(5月24日～5月30日)**

ヘルパンギーナと手足口病は一般に夏かぜといわれ、夏に流行する病気で、小さい子どもたちが多く感染します。手足口病は全国的にも例年の同じ時期と比べると報告数がかかなり多くなっています。

ヘルパンギーナは突然 38℃以上の熱が出て、のどの奥が赤くなり、口の中に小さな水ぶくれができます。手足口病も口の中、手足を中心に 2～3mm のみずぶくれができます。口の中の水ぶくれは痛みがあり食欲がなくなることが多いので、のどにしみない食事や水分を少量ずつ与え脱水にならないように注意しましょう。

どちらの病気もウイルスが手を介して口の中に入ったり、患者さんのくしゃみや咳、唾液に含まれるウイルスによって感染します。また症状が治まっても、便の中にウイルスが 3～4 週間は排泄されるので、予防は石けんでの手洗いとうがいを徹底することが大切です。原因に対する治療法はありません。発熱やのどの痛みなどの症状を和らげる対症療法が行われます。

また、おたふくかぜが日向市周辺で流行しており、警報レベルを超えています。3 歳から 6 歳の子どもたちが多く感染しています。